

R7年度3学期始業式式辞

260108

短かった冬季休業も終わり、3学期が始まりました。一年の始まりである元旦を穩やかに迎えたことと思います。一年の計は元旦にあり。皆さんはどのような目標・計画を立てたでしょうか。

4年前の令和4年9月に、兵庫県人権教育中央研修会が、尼崎市で開催されました。会場は小田中です。その廊下の至る所に、「時を守り、場を清め、礼を正す」と書いた掲示がさされていました。この言葉は、哲学者であり、教育者でもある森信三先生の言葉です。「時を守り」は、言葉の通り、時刻、時間、期限を守るということです。大切なのは、自分だけの問題ではなく、相手がいることということです。時間に遅れるということは、相手の時間を奪うことになります。私達にとって、時間は有限です。いつか必ず、死を迎えるからです。「時を守り」は、人を尊重することです。

次の「場を清め」は、これも言葉の通り掃除をすることです。R5年12月13日の神戸新聞朝刊の正平調に、「経営者であれ、スポーツ選手であれ、物事をとことん究める人は、最後はゴミ拾いに行き着く。」という書き出しが、カレーのCoCo壱番屋創業者の宗次徳二さんや野球の大谷翔平選手の例を挙げた記事が掲載されました。やらされる掃除では何も気づかないでしょうが、ここでいう掃除とは、「気づく」ということです。その場を使う人、その場の役割等を考えて掃除することで、気づきや工夫が生まれ、気づく人となり、人からの信頼や信用が増してくるのだと思います。気づきを持って掃除する人は、どうしたら汚れるかを知っているので、そのような行為はしません。だいたい、部屋や道を汚す人は気づきのない人がほとんどだと思います。

最後の「礼を正す」は、挨拶・返事をすることです。気持のいい挨拶や返事をしてもらって嫌な気持になる人はいないと思います。挨拶をされると、那人へ好感や安心感、信頼感を抱きます。つまり、人と良好な関係をつくることにつながります。

昨年の11月16日に神戸マラソンが開催されました。本校の生徒も、マラソンボランティアとして、支えるスポーツの立場から参加した人もいます。私は、H29年度・30年度と神戸マラソン実行委員会事務局長を務めました。神戸マラソンは、たくさんのボランティア、

県警、消防、医師会等のみなさんの協力の下、成立しています。とりわけ多額の協賛金でご支援下さる県内の企業の皆さんは、神戸マラソンが継続できるか否かの鍵を握る存在です。その企業のトップの方々に、大会前は開催のご支援のお願い、終了後にはお礼を、事務局長としてお伝えに行きます。例えば、当時のシステムズの家次 ceo やアシックスの尾山 ceo に直接、お願いやお礼を申し上げるのですが、ご対応に共通したものがあります。非常に丁寧で、私達が居心地がいいように配慮をされると言うことです。どうしたら相手が心地よくなるかという気遣い、気づきができる方なんだなと感じました。そして、世界的に活躍される企業を経営されることは、ご苦労も多いでしょうねという話をすると、回答も共通しています。私は人に恵まれ、運がいいんです。人への気遣い、気づく人になり、それが信頼となり、その信頼が積み重なったものが運なのだと感じました。

人を尊重する、気づく人になる、人と良好な関係を作る、これらは数字では表せない非認知能力という力です。尼崎小田高校は、探究的な学びを通して、これらの非認知能力の育成にも力を入れています。探究活動を通して、自分と違う意見をどう受け入れるか、曖昧に感じたらすぐ質問できるか、他人の意見を否定しないで、様々な観点から意見や考えを引き出せるか。そのような力を身につけ、周囲からの信用や信頼を積み重ね、自分の運として下さい。

そして、その運を自分のためにだけでなく、周囲の人のために、社会のために、日本のために、世界のためにも生かすことのできる人になって下さい。皆さんにとってそのような力を、運を身につけることのできる令和8年になることを願っています。

最後に、3年生の皆さん、いよいよ来週末は共通テストです。あなたたちの最強ぶりを遺憾なく発揮してきて下さい。楽しみにしています。